

北海道十勝平野北部，東居辺の鳥類

川辺 百樹¹⁾

Birds of Higashioribe, the northern part of Tokachi Plane, Hokkaido

Momoki KAWABE¹⁾

はじめに

十勝地方では、これまでいくつかの地域の鳥類相が報告される(関口 1963, 川辺 1975, 藤巻 1980, 飯嶋 1986, 佐藤 1995, 比企 1997, 飯島 1998, 浦幌野鳥倶楽部 2000)とともに個人の観察記録がとりまとめられており(藤巻・橋本編 1987), 鳥類相の概要はほぼ明らかになっている。しかし, まだ十分調査が行なわれていない地域も多い。特に十勝平野北部の鳥類相についてはこれまで報告がされていない。また種の分布状態が明らかになってきたものの分布要因についての考察は緒に就いたばかりである(川辺 2004a)。

そこで本稿では十勝平野北部の上士幌町東居辺において1975年から2004年12月までに観察した鳥類について報告するとともに森林性鳥類のエゾムシクイ *Phylloscopus tenellipes*・ウグイス *Cettia diphone cantans* の分布要因について考察する。また北海道では分布が限られているイカルチドリ *Charadrius placidus japonicus* の生息地選好性と分布要因についても考察する。

調査地と観察方法

調査地は、上士幌町市街地の東方約 6 km の居辺川流域である(図 1)。居辺川は、十勝平野北部士幌台地と押帯台地を画して東に流れ利別川に合流する流路延長約 33.5 km の河川である(北海道土木協会 1995)。この川は居辺断層に沿って流れ、下刻が著しいため、流域は谷地形となっている。

る。調査地での谷底と段丘面の比高は最大で 60 m ほどになる。このように調査地は十勝平野に含まれる(小嶋 2003)ものの、急峻な段丘崖をもち地形は起伏に富んでいる。また居辺川は山地に源流をもたず扇状地を形成しないが、側刻により古期扇状地礫層(北居辺礫層: 十勝団体研究会 1978)から多量の砂礫が供給されるため、砂礫の川原をもち、網状流河川となっている(図 2)。

河道(高水時に流路となるところ)には増水によって砂礫が移動し、流路が遮断されてできた止水に近い水域も点在する。河道の両岸はやや段丘化した氾濫原となっており、ケヤマハンノキ *Alnus hirsuta*・ヤナギ類 *Salix* spp・ヤチダモ *Fraxinus mandshurica* などからなる河畔林が成立している。この河畔林の中にかつての河道(旧河道)があり、緩やかな流れとなっている。両岸の段丘崖の下部には湧泉が各所にあり、ここから湧水が居辺川に流れ込んでいる。また氾濫原の河畔林を伐開したところにグラウンドや農地(主に牧草地)があり、小学校や農家が点在する。一部にカラマツの人工林もある。段丘崖の、特に急傾斜地には大径木が抜き切りされているが、本来の落葉広葉樹の天然林が残っている。

居辺川の町境(北緯 43° 11' 42", 東経 143° 22' 47"; 図 1 の A) 付近から東居辺橋(北緯 43° 13' 32", 東経 134° 22' 36"; 図 1 の B) 付近までの河道沿いに約 1000 m の幅を観察対象とした。調査面積は約 3.5 km² である。標高は 200 m から 260 m に及ぶ。

上士幌町市街地(標高 270 m)にある AMeDAS

1) ひがし大雪博物館 080-1403 北海道河東郡上士幌町字糠平 Kamishihoro-cho, Hokkaido, 080-1403, Japan Higashi Taisetsu Museum of Natural History, Nukabira,

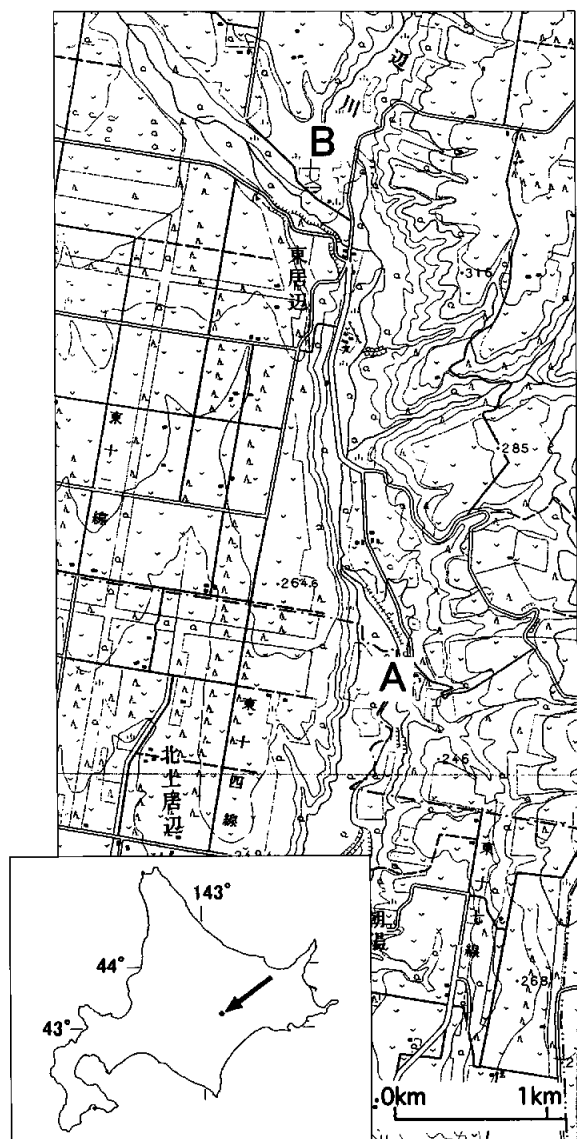


図1. 調査位置図. A: 東居辺橋 B: 町境界

Figure. 1. Location of study site. A: The boundary of town, B: The Higashioribe bridge



図2. 調査地の空中写真.

Figure. 2. The aerial photograph at the study area.

(アメダス) 上士幌観測点の気象データによると、1979～2000年の年平均気温、年平均降水量はそれぞれ5.4℃、896.6mmであった。

調査は1975年5月から2004年12月まで行なった。このうち1980年から1983年までは冬季も含め421日調査を行なった。それ以外の年の調査日数は、繁殖期を中心に年平均6日ほどであった。観察にあたっては双眼鏡（8倍）と望遠鏡（25倍）を使用した。

結 果

本調査地では113種の鳥類が記録された。このうち「十勝と釧路の野鳥」（藤巻・橋本編 1987）の分布図に生息が記されていない種は、次の25種である。

アオサギ・マガモ・ヒドリガモ・オナガガモ・エゾライチョウ・アリスイ・アカゲラ・コアカゲラ・

コゲラ・ヒバリ・ヒヨドリ・ミソサザイ・ノゴマ・
コルリ・ツグミ・ヤブサメ・キクイタダキ・コサ
メビタキ・オオジュリン・アトリ・ウソ・ゴジュ
ウカラ・カシラダカ・シマアオジ・ミヤマカケス

以下，種ごとに生息状況を述べる．種の配列と
学名は，日本鳥類目録改訂第6版（日本鳥学会
2000）に従う．

アオサギ *Ardea cinerea jouyi* Clark

一時的に飛来し，営巣はしていない．ここから近
い繁殖コロニーは上士幌町萩ヶ岡（北西約9 km）
と足寄町芽登（北12 km）である．

1976.6.15/1981.5.14/1982.6.3/1993.3.14/1997.5.
7/2003.5.3/2004.5.11

ハクチョウ属種 *Cygnus* sp.

1例の記録があるのみ．周辺での観察例からオ
オハクチョウ *C. cygnus* の可能性が高い．

1999.4.30 南西から北東へ2羽飛翔

オシドリ *Aix galericulata* (Linnaeus)

4月から5月に観察されたが，営巣については
未確認．

1977.5.22 ♂1 ♀1/1982.5.4 ♂1/1983.4.9 ♂1 ♀1
/1994.5.13 ♂1/1994.5.9 ♀1

マガモ *Anas platyrhynchos platyrhynchos* Linnaeus

巣やヒナは発見されていないが，調査地あるい
はその周辺で営巣している可能性が高い．

1976.6.29/1976.7.7/1981.3.26 ♂1 ♀1/1982.3.22
3羽/1983.8.7 7羽/1984.3.14 ♂1 ♀5/1985.5.9 ♂
1/1990.4.12 ♀1/1995.12.19/1996.4.15 ♂1 ♀1/
1998.4.6 ♂1 ♀1/2001.4.16 ♂2 ♀2

コガモ *Anas crecca crecca* Linnaeus

秋から春に飛来する．

1980.9.14 ♀1/1982.10.10 2羽/1982.12.30 9羽
/1982.4.29 4羽/1984.10.7 8羽

ヒドリガモ *Anas penelope* Linnaeus

1例の記録があるのみ．

1982.10.18 1羽

オナガガモ *Anas acuta acuta* Linnaeus

春と秋に各1例の記録があるのみ．

1982.10.18 ♀1/1998.4.6 ♂1

ホオジロガモ *Bucephala clangula clangula* (Linnaeus)

1例の記録があるのみ．

1977.2.16 ♂1

カワアイサ *Mergus merganser comatus* Salvadori

ヒナは観察されていないが，調査地周辺で営巣
している可能性がある．

1976.6.15 ♀1/1980.5.30 ♀1/1981.2.26/1989.6.
9/1990.5.17 ♂1 ♀1/1993.5.6 ♂1 ♀1/1994.5.7 ♂1
♀1/1996.5.22 1羽/1997.4.26 ♂1/1997.5.21 ♀1/
1997.5.7 ♂1 ♀1/1999.4.30 2羽/2001.5.21 ♀1

ミサゴ *Pandion haliaetus haliaetus* (Linnaeus)

1例の記録があるのみ．

1981.4.8 1羽飛翔

トビ *Milvus migrans lineatus* (Gray)

厳冬期にはほとんど見られなくなる．2箇所
で巣が確認されている．

1976.5.15/1980.12.17/1982.3.25 交尾/1983.2.11
1羽/1993.3.13/1993.3.28/1993.4.16 3つがい/
1993.4.16 ♂1 ♀1/1997.5.21 巣材運び/2004.5.19

オジロワシ *Haliaeetus albicilla albicilla* (Linnaeus)

2例の記録があるのみ．

1981.12.28 1羽飛翔/1992.4.13 1羽飛翔

オオタカ *Accipiter gentilis fujiyamae* Swann & Hartert

しばしば餌を運ぶのが観察されており，調査地
の周辺で営巣していると考えられる．

1980.5.30/1980.6.2 餌運び/1980.7.14/1980.9.27
/1981.3.19/1981.4.25/1981.5.14/1981.6.20 餌運び
/1981.7.13 餌運び/1981.7.24 キジバト捕殺/1981.
7.30 餌運び/1981.11.24/1982.4.21/1982.6.30/1982.
10.3/1983.3.21/1983.5.4 イソシギ捕殺/1985.5.3/
1990.5.30/1990.7.12 餌運び/1992.5.7 餌運び/1996.
4.13/1997.5.26/2003.5.15

ツミ *Accipiter gularis gularis* (Temminck & Schlegel)

2例の記録があるのみ．

1976.6.6 1羽/1984.5.31 ♂1 ♀1

ハイタカ *Accipiter nisus nisosimilis* (Tickell)

周年生息する．餌を運ぶのが目撃されているこ
とから，調査地あるいはその周辺で営巣している
と考えられる．

1980.6.12 ムクドリ幼鳥捕殺/1981.2.27/1981.12.
23/1982.3.14/1982.7.17/1982.12.12/1983.6.5 餌運
び/1992.5.2/1993.4.16/2002.5.10

ノスリ *Buteo buteo japonicus* Temminck & Schlegel
周年生息するが、営巣は未確認。

1981.12.16/1982.2.22/1984.5.12/1984.10.7/1992.
5.2/1993.4.28/2003.5.15 3羽/2004.5.19

クマタカ *Spizaetus nipalensis orientalis* (Temminck
& Schlegel)

1例の観察があるのみ、羽色からこの個体は前
年生まれと判断され、偶然的飛来と考えられる。

1984.4.1 若鳥 1

チゴハヤブサ *Falco subbuteo subbuteo* Linnaeus
周辺から採食のため飛来したらしい。

1976.7.7/1980.5.30/1980.6.8/1980.7.31/1980.8.
1/1981.5.20/1981.7.4/1985.6.20

エゾライチョウ *Tetrastes bonasia vicinities* Riley
河畔林とカラマツ林（人工林）にまれに出現し
た。営巣は未確認。

1980.7.17 1/1980.9.28/1980.11.7/1981.4.13/
1982.8.7

タンチョウ *Grus japonensis* (Muller)

1例の記録があるのみ。若鳥 3羽がデントコー
ン畑に飛来した（川辺 1985）。

1983.6.18 若鳥 3羽

イカルチドリ *Charadrius placidus japonicus*
Mishima

1983年に幼鳥が保護され、1990年に営巣に伴う
警戒行動が観察された。巣は発見していないが、砂
礫川原で繁殖することは確実である。1981-1982
年冬と1982-1983年には越冬が確認されている。
冬季および夏季とも活動域は河道内の流路の水辺
である。アオシギのように河畔林の小さな流れで
行動することはない。

1980.3.29/1980.9.2/1981.3.14/1981.3.19/1981.9.
11/1981.12.27/1982.1.7/1982.1.13/1982.2.1/1982.
3.11/1982.3.17/1982.3.23 2羽/1982.12.4/1982.12.
10/1982.12.26 2羽/1983.1.17 2羽/1983.1.20 3
羽/1983.1.20/1983.3.27 4羽/1983.6.26 幼鳥保護
/1983.8.7/1984.4.23/1984.5.5/1984.5.12 2羽/1989.
5.17/1989.6.5/1989.6.9/1990.4.12 5羽/1990.7.6/
1990.5.17 警戒/1990.5.18/1990.5.30 警戒/1990.6.
12 警戒/1993.3.14/1993.3.29/1993.4.16/1993.4.28
/1996.4.15/1996.5.8/1996.5.22/1997.4.26/1998.4.
29/1998.4.6/1999.4.30 2羽/2001.4.16/2002.5.3/

2004.4.20

タカブシギ *Tringa glareola* Linnaeus

1例の観察があるのみ。

1980.5.15 3羽

キアシシギ *Heteroscelus brevipes* (Vieillot)

5月にしばしば観察される。渡りの時期の一時的
飛来と考えられる。

1980.5.15/1980.5.24/1982.10.3/1982.5.19 2羽/
1982.5.19 2羽/1982.5.28/1997.5.7

イソシギ *Actitis hypoleucos* (Linnaeus)

夏鳥。川原に営巣する。イカルチドリが開けた
砂礫の裸地を好むのに対し、本種は幾分植物に覆
われた川原を好む。1980年と1982年に営巣を発見
し、1980年の孵化日は6月12日であった。

1976.5.15 2羽/1980.5.13 卵 4個/1980.6.12 ヒ
ナ 2羽卵 2個/1980.9.10/1981.4.11/1982.6.4 抱卵
/1983.4.9/1989.5.17/2004.4.25

ヤマシギ *Scolopax rusticola* Linnaeus

営巣は未確認。

1976.6.7 3羽飛翔/1976.6.8/1976.6.15/1976.6.
16

タシギ *Gallinago gallinago gallinago* (Linnaeus)

1例の観察があるのみ。

2001.4.16 1羽

オオジシギ *Gallinago hardwickii* (Gray)

夏鳥。牧草地に生息する。営巣は未確認。

1977.5.10/1981.4.25/1983.4.25/2004.5.11

アオシギ *Gallinago solitaria japonica* (Bonaparte)

冬鳥。河畔林の湧泉からの流れで見られること
が多い。生息数は多くない。

1980.12.10/1980.12.29/1981.1.9/1981.3.9/1983.
1.20

キジバト *Streptopelia orientalis orientalis* (Latham)

農地によく出現する。河畔林の林縁部で営巣が
確認されている。

1975.5.14/1980.9.19/1981.3.30/1989.5.10/1993.
4.14/2003.5.10 抱卵/2004.5.11

アオバト *Sphenurus sieboldii sieboldii* (Temminck)

夏季の一時期見られる。営巣は未確認。

1976.6.21/1981.6.1/1982.6.6/1998.6.13/2001.5.

21

ジュウイチ *Cuculus fugax hyperthy* Gould

5月下旬に渡来する，1992年以降確認されていない，コルリに托卵すると考えられる。

1977.5.22/1980.5.30/1981.5.21/1982.5.24/1983.6.8/1985.6.20/1990.5.18/1991.5.20

カッコウ *Cuculus canorus telephonus* Heine

5月下旬に渡来する，ハクセキレイとセグロセキレイへの托卵が確認されている。

1976.6.14/1977.5.22/1980.5.24/1981.5.22/1981.7.23 ハクセキレイに托卵/1982.6.4 セグロセキレイの巣で産卵/2004.5.19

ツツドリ *Cuculus saturatus horsfieldi* Moore

5月中旬に渡来する，ウグイスに托卵する可能性があるが，未確認。

1976.6.15/1980.5.13/1981.5.16/1982.5.15/1983.5.11/1985.5.12/1996.6.10/1998.5.21/2001.5.21/2004.6.13

コノハズク *Otus scops japonicus* Temminck & Schlegel

1981年と1982年に記録されたが，その後生息は確認されていない。

1981.5.13/1981.6.6/1981.6.7/1982.5.24

エゾフクロウ *Strix uralensis japonica* (Clark)

1例の記録があるのみ。

1982.3.25 1羽

ヨタカ *Caprimulgus indicus jotaka* Temminck & Schlegel

1例の記録があるのみ。

1976.6.8

ハリオアマツバメ *Hirundapus caudacutus caudacutus* (Latham)

2例の記録があるのみ。

1981.6.1/1983.6.8

キタアマツバメ *Apus pacificus pacificus* (Latham)

1例の記録があるのみ。

1983.6.8

エゾヤマセミ *Ceryle lugubris pallida* Momiyama

営巣は未確認，1985年以降記録されていない。
1976.5.15 2羽/1977.2.16/1981.1.11/1981.2.6/1981.2.6/1981.8.27/1984.6.28

カワセミ *Alcedo atthis bengalensis* Gmelin

1990年に営巣が確認されたが，調査地付近は網状流となっており，河岸にカワセミの営巣に好適

な粘土質の小崖が乏しい，このため本種の営巣には好適ではない。

1989.5.17/1990.5.18 巣に出入り/1991.5.20/1991.6.19/1994.5.13

アリスイ *Jynx torquilla japonica* Bonaparte

3例の記録があるのみ，1987年には繁殖したと考えられる。

1982.7.23/1984.6.24/1987.7.11 給餌

ヤマゲラ *Picus canus jessoensis* Stejneger

3例の記録があるのみ。

1983.4.9/1985.6.4 ♂1/1992.4.13

クマゲラ *Dryocopus martius martius* (Linnaeus)

分散個体が一時的に飛来したと考えられる。地元の人によると，ここから10kmほど下流でかつて繁殖していたという。

1982.3.20/1982.3.23

エゾアカゲラ *Dendrocopos major japonicus* (Seeböhm)

周年生息し，営巣する。

1980.11.12/1981.1.9/1985.5.9 巣穴掘り/1991.6.24 警戒/2003.5.3

エゾオオアカゲラ *Dendrocopos leucotos subcirris* (Stejneger)

落葉広葉樹林で営巣する。

1976.8.14/1980.5.30/1990.5.17/1990.5.30/1990.6.12/1993.5./2004.5.19 給餌

コアカゲラ *Dendrocopos minor amurensis* (Buturlin)

繁殖の可能性は大きい，営巣は未確認。

1980.9.13 ♂1 ♀1/1981.4.24/1981.6.15/1989.5.17

エゾコゲラ *Dendrocopos kizuki ijimae* (Taka-Tsukasa)

周年生息するが，営巣は未確認。

1980.10.30/1980.12.15/1983.1.3/1985.5.23/1992.5.12/1993.5.21/1998.4.29

ヒバリ *Alauda arvensis japonica* Temminck & Schlegel

夏鳥，営巣の可能性が高いが未確認。

1980.9.13 3羽/1981.6.20/1990.5.9

ショウドウツバメ *Riparia riparia ijimae* (Lonnberg)

3例の観察記録があるのみ，周辺から採食のため飛来する。

1976.6.2/1981.4.24/1989.6.9

イワツバメ *Delichon urbica dasypus* (Bonaparte)

周辺から採食のため飛来する。

1985.5.23/1989.6.9/1996.5.22 3羽

キセキレイ *Motacilla cinerea robusta* (Brehm)

夏鳥。居辺川沿いの崖地で営巣する。

1981.3.30/1990.5.17 営巣/1990.5.18 営巣/1990.5.21 営巣/1991.5.24 営巣/1997.4.26 営巣/1997.5.7 営巣/2000.5.12

ハクセキレイ *Motacilla alba lugens* Gloger

物置や牛舎など建物に営巣する。調査地内では年に最大4つがい営巣する。冬季にもまれに見られるが、繁殖個体が留まるわけではないことが標識個体の追跡により確認されている(川辺 2005a)。

1976.7.2/1980.12.10/1982.3.25/1985.5.23/2004.5.11/2004.12.12

セグロセキレイ *Motacilla grandis* Sharpe

標識個体の追跡により川原に周年生息することが明らかになった(川辺 2005b)。主に流木に営巣する。1981年に6つがいの繁殖が記録されている。1976年にハクセキレイとの異種間つがいが発見された(川辺 1978)。

1975.5.14/1981.8.22 淡水エビ採食/1991.6.14 丸太に営巣/1996.4.15 物置に営巣

ビンズイ *Anthus hodgsoni hodgsoni* Richmond

夏鳥。営巣の可能性が高いが、未確認。

1980.9.13/1981.4.29/1985.6.20/1990.5.9/1994.5.13/2000.5.12

タヒバリ *Anthus spinoletta japonicus* (Temminck & Schlegel)

渡り時期に飛来する。

1981.4.14/1982.10.18 11羽/1982.4.19/1982.5.8/1987.4.13

ヒヨドリ *Hypsipetes amaurotis amaurotis* Temminck
周年生息する。幼鳥が観察されたことから営巣していると考えられる。

1976.6.29/1980.5.13/1980.12.29/1981.1.21/1984.5.27/1987.7.11 幼鳥/1987.8.9/1989.6.5/1990.4.12 6羽/1992.5.12/1993.5.21/1995.5.18/1997.5.21/1999.5.15/2001.5.21/2003.5.10

モズ *Lanius bucephalus bucephalus* Temminck & Schlegel

夏鳥。営巣が確認されている。

1976.7.2/1980.7.9/1980.9.27/1981.4.6/1981.8.21/1983.4.11/1985.6.4/1987.5.19/2000.5.10

アカモズ *Lanius cristatus superciliosus* Latham

1例の記録があるのみ。

1983.6.8

オオモズ *Lanius excubitor bianchii* Hartert

1例の記録があるのみ。

1982.3.20

キレンジャク *Bombycilla garrulus centralasiae* Poljakov

まれな冬鳥。

1982.11.20 20羽/1983.3.27 5羽

ヒレンジャク *Bombycilla japonicus* Siebold

1例の記録があるのみ。

1982.3.2 2羽

カワガラス *Cinclus pallasii pallasii* Temminck

1990年には6月12日に観察された例があるが、多くは秋から早春に飛来し、営巣はしていない。

1980.11.12/1980.12.10/1981.2.26/1981.3.9/1981.10.31/1990.6.12

ミソサザイ *Troglodytes troglodytes fumigatus* Temminck

冬季に滞在し、営巣はしていない。

1980.11.12/1980.12.30/1981.1.21/1981.2.6/1981.3.19/1982.1.10/1982.2.21/1987.4.13/1993.3.14/1993.4.14/1994.4.28

ノゴマ *Luscinia calliope* (Swinhoe)

夏鳥。少数が生息する。営巣は未確認。

1982.6.18/1985.5.14/1998.6.13

コルリ *Luscinia cyane* (Pallas)

夏鳥。河畔林および落葉広葉樹林に生息する。営巣は未確認。

1981.5.8/1990.5.17/1991.5.18/1993.5.21/1996.5.22/1997.5.21/1998.5.21/2001.5.16/2002.5.10/2003.5.10/2004.5.19

ジョウビタキ *Phoenicurus aureus aureus* (Pallas)

冬にまれに飛来する。

1981.2.27 ♀1/1982.2.21

ノビタキ *Saxicola torquata stejnegeri* (Parrot)

夏鳥。繁殖していると考えられるが営巣は未確認。

1975.5.14/1981.4.17/1993.5.12/2004.4.25

トラツグミ *Zoothra dauma aurea* (Holandre)

夏鳥。営巣は未確認。

1976.7.4/1980.5.15/1981.4.21/1982.6.24

クロツグミ *Turdus cardis* Temminck

夏鳥。春に河畔林でよく囀るが、営巣は未確認。

1980.5.15/1980.5.22/1980.6.8/1981.4.25/1985.5.23/1987.5.2/1987.5.2/1988.5.17/1989.5.17/1991.6.3/2003.5.3

アカハラ *Turdus chrysolaus chrysolaus* Temminck

夏鳥。河畔林や二次林に生息し、繁殖が確認されている。

1976.6.29 糞運び/1981.4.24/1987.7.11/1999.4.30/2004.5.19

マミチャジナイ *Turdus obscurus* Gmelin

1例の記録があるのみ。

1981.10.31 道路上で保護

ツグミ *Turdus naumanni eunomus* Temminck

渡りの時期に飛来する。

1980.10.4 5羽/1980.10.5/1981.2.23/1984.4.23/1993.3.13/2001.4.16 2羽

ヤブサメ *Urosphena squameiceps* (Swinhoe)

夏鳥。繁殖の可能性が高いが営巣は未確認。

1987.5.19/1990.5.17/1990.5.9/1992.5.12/1993.5.12/2003.5.15/2004.5.11

ウグイス *Cettia diphone cantans* (Temminck & Schlegel)

4月下旬から5月上旬に渡来し、河畔林や二次林でよく囀る。5月下旬や6月上旬にも囀りが聞かれることがあり繁殖の可能性はあるが、巣は確認されていない。

1981.5.2/1983.4.25/1984.6.24/1985.6.4/1989.5.17/1990.5.2/1990.5.17/1990.5.30/1990.6.5/1991.5.1/1991.5.24/1993.5.6/1996.4.28/1996.6.10/1997.5.7/2000.5.10/2001.5.16/2001.5.21/2002.5.3/2002.5.17/2003.5.3/2003.5.10/2004.6.13

エゾセンニュウ *Locustella fasciolata amnicola* Stepanyan

夏鳥。河畔林に生息する。営巣は未確認。

1976.6.7/1976.8.14/1977.5.28/1984.5.24/1989.6.5/1991.6.1/1996.6.10/1997.6.11

コヨシキリ *Acrocephalus bistrigiceps* Swinhoe

1例の記録があるのみ。

1985.6.20

メボソムシクイ *Phylloscopus borealis* Blasius

3例の記録があるのみ。「日本鳥類目録改訂第6版」(日本鳥学会 2000)では北海道で亜種メボソムシクイ *P. b. xanthodryas* が繁殖しているとされているが、渡りの時期にのみ観察された。オオムシクイ *P. b. examinandus* あるいはコムシクイ *P. b. borealis* らしい(川辺 2003)。

1981.6.13/1983.6.8/1998.6.13

エゾムシクイ *Phylloscopus tenellipes* Portenko

夏鳥。急峻な段丘崖の森林に生息する。繁殖していることは確実と考えられるが、営巣は未確認。

1980.5.15/1982.5.6/1984.5.27/1984.6.29/1990.5.17/1992.5.12/1993.5.6/1993.5.21/1996.5.8/1996.6.10/1997.5.7/1997.6.11/1998.4.27/1998.4.29/2001.5.21/2002.5.3/2003.5.3/2004.5.11

センダイムシクイ *Phylloscopus coronatus* (Temminck & Schlegel)

夏鳥。天然林からカラマツ人工林までいろいろなタイプの森林に生息する。2004年に発見された巣は居辺川の氾濫原のカラマツ人工林の根元に作られていた。

1975.5.14/1985.5.3/1990.5.9/1992.5.7/1993.5.21/1996.6.10/1997.6.11/1998.4.27/2002.5.3/2003.5.3/2004.5.19 卵4個/2004.6.6 卵6個

クイタダキ *Regulus regulus japonicus* Blakiston

1例の記録があるのみ。調査地内には常緑針葉樹が少ないため、まれにしか飛来しない。

1981.2.27

キビタキ *Ficedula narcissina narcissina* (Temminck)

夏鳥。落葉広葉樹林に生息する。繁殖していることは確実と考えられるが、営巣は未確認。

1975.5.14/1977.5.22/1987.7.11/1994.5.13/1997.6.11/2002.5.10/2004.5.19

オオルリ *Cyanoptila cyanomelana cyanomelana* (Temminck)

夏鳥。営巣は未確認であるが、居辺川の浸食作用で出現した崖で営巣している可能性が高いと考えられる。

1975.5.14/1982.5.8/1984.5.12/1989.5.10/1990.6.23/1993.5.12/1995.5.18/1994.5.13/1997.5.7/2001.

5.16/2002.5.3/2004.5.11

コサメビタキ *Muscicapa dauurica dauurica* Pallas

夏鳥。河畔林や落葉広葉樹林に生息するが、営巣は未確認。

1980.6.8/1983.6.8/1985.5.23/1997.5.21/2001.5.

21 2羽/2003.5.10

シマエナガ *Aegithalos caudatus japonicus* Przak

周年生息し、河畔林および二次林で営巣する。

1977.4.7/1980.12.1/1981.1.21/1985.5.9/1985.5.

30 巣に出入り/1990.5.17/2002.5.3/2003.5.10

ハシトガラ *Parus palustris hensoni* Stejneger

周年生息し、河畔林や二次林で営巣する。

1977.5.10/1980.11.12/1980.5.15 巣作り/1981.1.

11/1981.3.9/1982.6.4 給餌/1985.5.30 抱卵/1988.5.

10 樹洞に出入り/1990.5.17 抱卵/1992.5.7 営巣/

2002.5.3 巣材運び

コガラ *Parus montanus restrictus* Hellmayr

生息数はハシトガラより少ない。2003年に営巣が確認された(川辺 2004b)。カラマツ人工林の育成が本種の分布拡大に寄与しているようである。

1981.12.26/2003.5.15 巣穴掘り

ヒガラ *Parus ater insularis* Hellmayr

繁殖期にカラマツ植林地でみられるが、営巣は未確認。カラマツ人工林の育成が本種に新たな生息地を提供し、分布拡大に寄与しているらしい。

1980.11.12/1981.1.21/1984.5.17/1998.6.13/2003.

5.15/2004.5.11

シジュウカラ *Parus major minor* Temminck & Schlegel

河畔林や二次林に生息し、繁殖する。

1975.5.14/1977.5.22/1980.10.20/1981.3.9/1985.

5.30 給餌/1987.7.11/1990.5.9/1994.5.13/1996.5.22/1999.4.30/2002.5.3/2003.5.10

シロハラゴジュウカラ *Sitta europaea asiatica*

Gould

周年生息し、落葉広葉樹林で営巣する。

1981.1.9/1985.5.9/1985.5.30 給餌/1990.5.17/

1993.3.14/1996.4.15/2001.5.16/2004.5.19

メジロ *Zosterops japonicus japonicus* Temminck & Schlegel

1例の記録があるのみ。本種は近年十勝地方の平野部で分布を拡大しているようであり、今後の

動向が注目される。

1996.5.8

ホオジロ *Emberiza cioides ciopsis* Bonaparte

夏鳥。林縁部や伐開地に生息する。繁殖の可能性が高いが営巣は未確認。11月中旬の記録がある。

1980.11.12/1982.4.4/1983.3.27/1996.5.8

カシラダカ *Emberiza rustica latifascia* Portenko

渡りの時期に飛来する。

1980.10.20/1980.10.30/1996.4.15/1997.5.7

ミヤマホオジロ *Emberiza elegans elegans* Temminck

渡りの時期にまれに飛来する。

1983.3.27/1993.3.29

シマアオジ *Emberiza aureola ornata* Shulpin

1例の記録があるのみ。

1981.5.24

アオジ *Emberiza spodocephala personata* Temminck

夏鳥。林縁部に生息し、営巣が確認されている。最も早い渡来は1981年の4月17日。

1980.5.29 卵5個/1981.4.17/1987.7.11/1993.4.

28/1997.4.26

オオジュリン *Emberiza schoeniclus pyrrhulina* (Swinhoe)

1例の記録があるのみ。

2003.5.3 ♀2

ユキホオジロ *Plectrophenax nivalis vlasowae*

Portenko

1例の記録があるのみ。馬の飼料に集まっていた。

1981.2.23 80羽

アトリ *Fringilla montifringilla* Linnaeus

渡りの時期に飛来する。

1983.3.27 70羽/1990.4.12 24羽/2004.4.26 2羽

カワラヒワ *Carduelis sinica minor* (Temminck & Schlegel)

夏鳥。林縁部など開けたところに生息し、営巣が確認されている。

1977.4.15/1981.6.11 巣にヒナ4羽/1984.4.1/

1987.5.19/1990.5.9/1992.5.12/1993.5.12/1997.4.26/2003.5.10/2004.4.26

マヒワ *Carduelis spinus* (Linnaeus)

冬から春に飛来する。

1981.1.12 4羽/1983.3.6 50羽/1996.4.15 1羽

ベニヒワ *Acanthis flammea flammea* (Linnaeus)

冬から春にまれに飛来する。

1983.2.26 2羽/1983.3.21 50羽/1996.4.15

ハギマシコ *Leucosticte arctoa brunneonucha* (Brandt)

1例の記録があるのみ。

1981.3.14 9羽

オオマシコ *Carpodacus roseus* (Pallas)

冬から春にまれに飛来する。

1981.1.1 4羽/1981.2.28 ♂3♀2/1981.1.12/1981.3.14 3羽/1981.3.2 5羽/1981.3.8/1981.3.26 3羽

ベニマシコ *Uragus sibiricus sanguinolentus* (Temminck & Schlegel)

夏鳥であるが，12月中旬に出現した例がある。

1976.7.4/1980.12.14/1983.1.3/1984.4.23/1989.6.5/1992.4.13/1996.4.15/1996.6.10/1997.6.11/2004.4.16

ウソ *Pyrrhula pyrrhula griseiventris* Lafresnaye

冬から春に飛来する。

1980.12.10/1981.3.26/1982.3.12/1983.1.3/1996.4.15

イカル *Eophona personata personata* (Temminck & Schlegel)

繁殖期にしばしば観察されているが，営巣は未確認。

1976.7.7 2羽/1980.5.22/1981.4.25/1984.5.27/1985.5.23/1987.7.11 2羽

シメ *Coccothraustes coccothraustes japonicus* Temminck & Schlegel

冬季の記録は少ない。繁殖していると考えられるが，営巣は未確認。

1977.5.22/1981.2.23/1985.6.20/1989.6.5/1993.5.21/1994.5.13/1995.5.18/1997.5.21/2001.5.21

ニュウナイスズメ *Passer rutilans rutilans* (Temminck)

夏鳥。林縁部に生息し，営巣している。

1990.5.9/2001.5.16 巣材運び/2004.5.11 道路わきのスノーボール先端の孔に巣材運び

スズメ *Passer montanus saturatus* Stejneger

人家周辺に生息し，建物に営巣する。

1980.8.13/1983.6.8/1985.5.23 巣でヒナの声

コムクドリ *Stururus philippensis* (Forster)

夏鳥。個体数は多くない。建物での営巣例がある。

1981.6.20/1988.5.17 巣に出入り/1997.5.21 ♀1

ムクドリ *Stururus cineraceus* Temminck

物置の壁の隙間などに営巣する。

1981.4.13/1982.5 給餌

ミヤマカケス *Garrulus glandarius brandtii* Eversmann

周年生息し，繁殖していると推測されるが，営巣は未確認。

1976.7.7/1980.5.13/1980.12.5/1981.2.23/1981.6.19/1982.7.1/1984.6.28/1989.6.5/1990.5.17/1992.5.12/1994.5.13/1996.5.8

ハシボソガラス *Corvus corone orientalis* Eversmann

河畔林で営巣が確認されている。

1976.6.2/1976.7.2 家族群 6羽/1985.6.4/2002.5.3 抱卵

ハシブトガラス *Corvus macrorhynchos japonensis* Bonaparte

河畔林や落葉広葉樹林での営巣が確認されている。

1977.4.7 巣材運び/2003.5.10 抱卵/2004.5.11 抱卵

考 察

エゾムシクイとウグイスの分布制限要因

十勝平野の森林に生息する鳥類で分布が注目されるのは，エゾムシクイ・ウグイス・コガラなどである。コガラについては既に報告した（川辺 2004b）ので，ここではエゾムシクイとウグイスの分布制限要因について考察する。

エゾムシクイの近縁種であるセンダイムシクイは十勝平野の森林に広く分布しているが，エゾムシクイは十勝平野の中央部分には分布していない（図3）。北海道における両者の分布を分析した藤巻（2001）は，エゾムシクイよりセンダイムシクイがさまざまなタイプの森林に生息可能であることからセンダイムシクイの「生息環境の幅の広さ」を指摘した。

両者の生息環境選択の幅に関わる要因として注目されるのは，両者の営巣場所の違いである。清棲（1978）は，エゾムシクイは崖地特に樹根が多数下った崖くずれ後の洞中を営巣場所として選

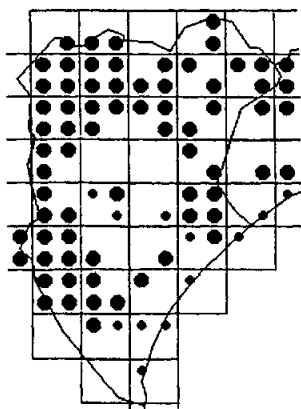


図5. 十勝地方におけるウグイスの繁殖分布（藤巻・橋本 1987より一部引用。小さい黒丸は繁殖不明）

Figure 5. The breeding distribution of Bush Warbler in Tokachi district (after Fujimaki & Hashimoto 1987)

所として崖を選好するエゾムシクイの生息を困難にしていると考えられる。

ウグイスも十勝平野の森林には分布していない（図5）。ウグイスは長流枝丘陵，幕別台地にも分布せず，分布しない地域はエゾムシクイよりも東に広がる。ウグイスは灌木・ススキ *Miscanthus sinensis*・ササ（*Sasa* 属）に巣をつくることが知られている（清棲 1978, Brazil 1991）。長流枝丘陵，幕別台地を含む十勝平野の河成段丘面の大部分は，カシワ林に覆われている（紺野 1993）。カシワ林の林床は，ミヤコザサ（オオクマザサ *Sasa chartacea*）が優占し，灌木類が乏しい傾向がある。ミヤコザサはクマイザサ *S. senanensis* やチシマザサ *S. kurilensis* と異なり稈が枝分かれないという形態的特性があり，稈高も低い。このような形態のミヤコザサにウグイスが巣をつくることは難しい。本調査地はミヤコザサの分布域である（豊岡ほか 1984）が，段丘崖に残る天然林には灌木が多く植生構造はカシワ林より複雑である。本調査地において営巣は未確認であるが，このような植生構造がウグイスの繁殖期の生息を可能にしているようである。したがって，十勝平野におけるウグイスの分布制限要因として，カシワ林におけるミヤコザサの存在とカシワ林の灌木層の乏しさが考えられる。

イカルチドリの生息地選好性と分布要因

今回，調査地内の居辺川で繁殖が確認された河

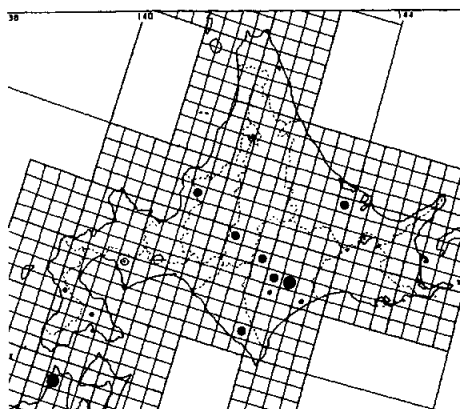


図6. 北海道におけるイカルチドリの繁殖分布（日本野鳥の会 1980より一部引用。小さい黒丸は繁殖不明）

Figure 6. The breeding distribution of Long-billed Plover in Hokkaido (after WBSJ 1980)

川性鳥類は，セグロセキレイ・イカルチドリ・イソシギ・キセキレイ・カワセミの5種である。セグロセキレイとイカルチドリは北海道での分布が限られている種である。それは，イカルチドリにおいてより顕著である（図6）。

セグロセキレイの分布が北海道で限られていることについて，筆者は本種の生息地である砂礫川原をもつ河川が北海道には少ないことがその要因になっていることを指摘した（川辺 2004a）。そこでイカルチドリの分布要因についても生息地の選好性から考察する。

本種の繁殖期の生息地に関する主な見解は次の通りである。

日本野鳥の会（1980）は，「鳥類繁殖地図調査 1978」のなかで「河川の中流から上流にかけて多く」「巣は河川の中・上流の河原や河洲の砂礫地や草がまばらに生えた場所」につくるとしたが，Brazil（1991）は「the lower reaches（下流）」沿いで繁殖するとした。日本鳥学会（2000）は「日本鳥類目録改訂第6版」で「upstream riverbed and lake side（上流の河床と湖岸）」で繁殖するのに対し，藤巻（2000）は「北海道鳥類目録改訂2版」で「主に河川の中・下流部の河川敷に生息する」とした。このように本種の繁殖期の生息地について見解の一致をみない。

中村（1986）は，上流・中流・下流と区分せず

に、本種の生息地を中州の発達した「河原石のごろごろしているところ」とした。Brazil (1991) は本種が下流で繁殖するとしながら、特に出現する場所を「shingle banks and shoals (玉石の河岸と州)」とした。河井ほか (2003) は、本種の生息地について「河川の砂礫地、丸石のある川の上流部～中流部で見られることが多い。山間部の河原の発達した場所でも見られる」とした。筆者は、十勝地方の音更川において本種がコチドリよりも上流域の砂礫川原に生息することを報告した (川辺 1988)。今回、小規模河川であるが、砂礫川原をもつ居辺川で本種の繁殖が確認された。このようなことから本種の生息地は砂礫川原、特に大礫 (cobble, 64～256mm) の多い砂礫川原であることが明確になった。

このような砂礫川原は、セグロセキレイの生息地と共通している。筆者は、さきにセグロセキレイの生息地について議論したなかで、砂礫川原の出現する場所は河川の特性と結びついており、セグロセキレイの生息地を中流・下流と一般化できないことを指摘した (川辺 2004a)。したがって、どのような性質の河川であるかを明確にせずに本種の生息地を上流・中流・下流と記載することは避けるべきである。

砂礫川原をもつ河川は、洪水時に砂礫の運搬堆積作用が活発なため流路が網の目状となる網状流河川となることが多い。網状流河川では、多くの中州や寄川ができ、そこに浅瀬が出現する。それぞれの浅瀬を合わせた面積は大きいものになる。このため網状流河川は、主に水生昆虫を水際で採食するセグロセキレイにとって好適な生息地となっていることが知られている (川辺 2005c)。具体的な調査を行っていないが、イカルチドリの場合もこのような網状流河川の水際での採食の有利性が砂礫川原をもつ河川を選好する要因になっていると考えられる。したがって、イカルチドリの分布が北海道において限られているのは、砂礫川原をもつ河川が北海道に少ないことが主な理由になっている、と筆者は考える。

おわりに

1975年以来セキレイ類を中心に調査を行なって

きたため、セキレイ類以外の鳥について定量的な調査を実施していない。したがって、具体的データを基に個体数の増減を議論できないのだが、ヨタカ・ジュウイチ・コノハズク・ヤマシギなどは近年観察されておらず、個体数の減少が懸念される。今後は、これらの種の生息の実態解明に努めたいと考えている。

調査にあたっては、坂井守氏 (故人)、宮内昭二氏、田岡正好氏、東居辺小学校の皆さんに便宜を図っていただいた。松田まゆみ氏にはいつも調査に協力いただいた。斎藤潤氏には英文の校閲をしていただいた。これらの方々に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 飯嶋良朗, 1986. 大樹の鳥, 80pp.
 飯嶋良朗, 1998. 大樹の鳥II, 114pp.
 Brazil, M. A., 1991. The Birds of Japan, pp.123-124, Christopher Helm, A & C Black, London.
 藤巻裕蔵, 1980. 北海道十勝地方の鳥類1. 新得山とその付近の鳥類, 山階鳥研報, 12: 40-52.
 藤巻裕蔵, 2000. 北海道鳥類目録改訂2版, p.16, 帯広畜産大学野生動物管理学的研究室, 帯広.
 藤巻裕蔵, 2001. 北海道中部と南東部におけるエゾムシクイとセンダイムシクイの生息状況, Strix, 19: 1-9.
 藤巻裕蔵・橋本正雄編, 1987. 十勝と釧路の野鳥, 82pp. 日本野鳥の会十勝支部・釧路支部.
 比企知子, 1997. 十勝地方東部, 本別町の鳥類, ひがし大雪博物館研究報告, 19: 61-66.
 北海道土木協会, 1995. 北海道河川一覧 (平成7年改訂), 306pp. 社団法人北海道土木協会, 札幌.
 河井大輔・川崎康弘・島田明英, 2003. 北海道野鳥図鑑, p.300. 垂璃西社, 札幌.
 川辺百樹, 1975. 大雪山国立公園東部の鳥類, ひがし大雪博物館館報, 1: 1-19.
 川辺百樹, 1978. 番となったセグロセキレイとハクセキレイの繁殖生活, 鳥, 27(2/3): 74.
 川辺百樹, 1985. 上士幌町に飛来したタンチョウについて, ひがし大雪博物館研究報告, 7: 49-50.
 川辺百樹, 1988. 北海道, 音更川の水辺性鳥類, ひがし大雪博物館研究報告, 10: 27-36.
 川辺百樹, 2003. 大雪山国立公園鳥類目録, ひがし大雪博物館研究報告, 25: 1-49.
 川辺百樹, 2004a. セグロセキレイの生息地と分布制限要因, ひがし大雪博物館研究報告, 26: 59-78.
 川辺百樹, 2004b. 北海道の低標高地におけるコガラの繁殖例, ひがし大雪博物館研究報告, 26: 55-57.

- 川辺百樹, 2005a. 北海道中央部におけるハクセキレイの帰還状況. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 51-54.
- 川辺百樹, 2005b. 分布北辺域におけるセグロセキレイの季節的移動. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 55-61.
- 川辺百樹, 2005c. セグロセキレイの生息地選好要因. ひがし大雪博物館研究報告, 27: 63-74.
- 清棲保幸, 1978. 日本鳥類大図鑑増補改訂版第1巻, p.163, 講談社, 東京.
- 小嶋 尚, 2003. 北海道の地形区分. 「日本の地形 2, 北海道」(小嶋 尚・野上道男・小野有五・平川一臣編), p.2, 東京大学出版会.
- 紺野康夫, 1993. 生き物たち(植物). 十勝大百科, pp.100-102, 北海道新聞社, 札幌.
- 中村登流, 1986. 野鳥の図鑑, 陸の鳥(1). p.200, 保育社, 大阪.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版, p.92, 日本鳥学会.
- 十勝団体研究会, 1978. 地団研専報22 十勝平野, 433pp. 地学団体研究会.
- 日本野鳥の会, 1980. 第2回自然環境保全基礎調査, 動物分布調査報告書(鳥類)全国版, 鳥類繁殖調査1978, pp.154-155, 日本野鳥の会, 東京.
- 佐藤 満, 1995. 浦幌町の鳥類. ワイルドライフ・レポート, 16: 20-33.
- 関口弘之, 1963. 十勝の鳥. 帯広市教育委員会.
- 豊岡 洪・佐藤 明・石塚森吉, 1984. 北海道ササ分布図. 新技術情報, No.10, 林業試験場北海道支場.
- 浦幌野鳥倶楽部, 2000. 浦幌鳥類目録, 37pp.

Summary

I studied birds at Higashioribe, Kamishihoro in the northern parts of Tokachi Plain, Hokkaido from May 1975 to December 2004. One hundred thirteen species were recorded at this area. Twenty-five species out of the species observed were not reported in this area before the duration mentioned above. It was identified by songs that the bird considered to be Arctic Warbler was not *Phylloscopus borealis xanthodoryas* but *P. b. borealis* or *P. b. examinandus*. They were passage migrants. It is thought that the factor limiting distribution of Eastern Pale-legged Leaf Warbler in Tokachi Plain is the scarcity of the cliffs that provides nesting places for this species. It is considered that the distribution of Bush Warbler in Tokachi Plain is restricted by two factors. Namely one is that *Sasa chartacea* which is inadequate to be nested by this species is distributed broadly in Tokachi Plain, another is that the bush layer which provides nest sites for this species is scarce. It was clarified that the suitable habitat for Long-billed Plover was sand and gravel dry riverbeds. An occurrence of sand and gravel dry riverbeds depends on the characteristic of rivers. Therefore, it is not appropriate that their habitats are described as the upper streams, the midstreams or the lower reaches.